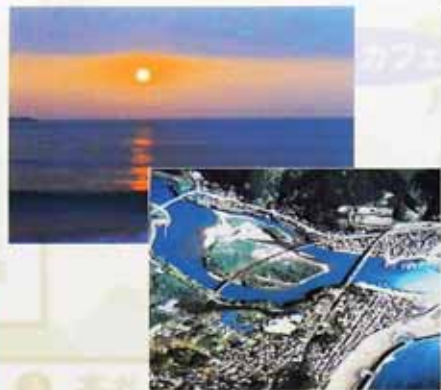


自然×時間

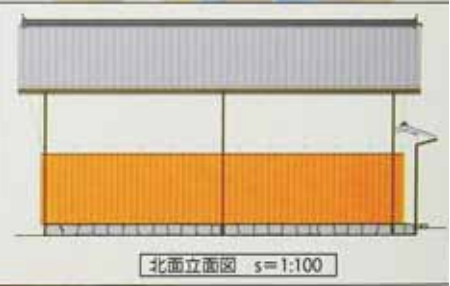
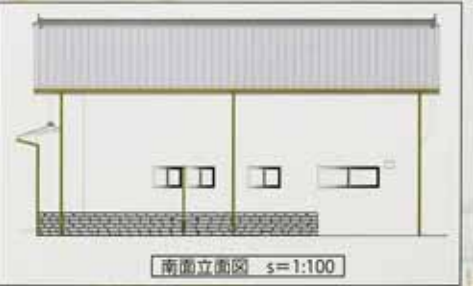
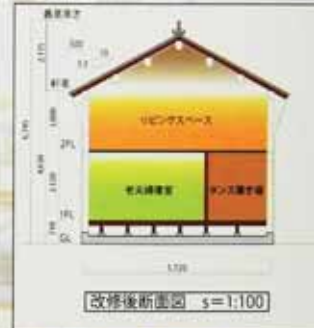
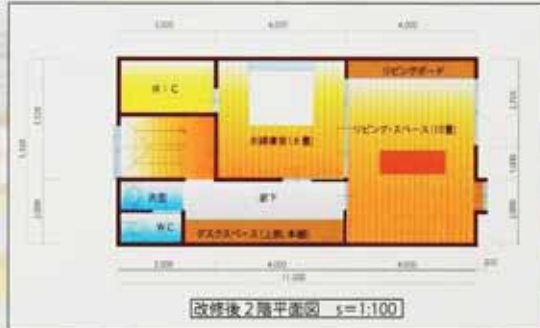
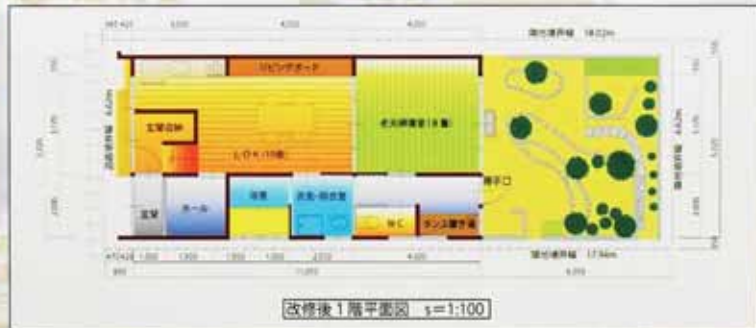
Miyazaki Mimitsu



日向市美々津伝統保存地区の経緯
日向市美々津は、江戸時代から高鍋藩の商港として栄えた町で多くの廻船問屋等の建物が建ち並び、現在も古い町並みが多く現存している。当時の高鍋藩主秋月氏もこの港を参勤交代に利用しており大変重要視していた。また、この地は初代天皇である神武天皇が東征へ出発をされた地、御船出の地として伝えられており、町には古くから伝わる伝統の祭りや食文化、古事にあつた地名や、神武天皇をお祀りした神社など神話を物語る風習・風俗などが息づいている。さらに美々津は天然の良港を有する港町として県内では唯一の上方文化の影響を受け「美々津千軒」と呼ばれるほどの町並みを形成し、昭和六十一年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され町並みを保存している。

しかし、この重要伝統的建造物群保存地区では高齢化が進み「空き家」が多い状態が概して、今回提案する「備前屋」は、江戸時代末期、天保十五年（一八四四年）建立の切妻妻入の建物であり、廻船問屋として使用されていた。幾代に渡り住み継がれてきたが最近になり所有者が高齢になり、後を管理する者が近くにいないこともあり日向市に管理を依頼された。現在は、日向市教育委員会の所有・管理となっているが週に一回ほど市外の方が工房として使用されるだけで日頃は「空き屋」状態となっている。

日向市美々津「空き家」との出会い
井幸司（八十五歳）は、この美々津で生まれ十五歳で職争に招集された。終戦後生還し美々津に帰る。その後、東京で働き、人生の伴侶、南と結婚、三人の子どもに恵まれる。定年退職後、都会の暮らしにも満足はするが、ふと、故郷、美々津での思い出が脳裏をよぎる。昨年、長男、成幸の定年退職を機に幸司八十五歳、南八十八歳、成幸、成幸の妻、良子の四人で宮崎（古事記編纂二〇〇〇年）のツアーへ出かけ、幸司の生まれ育った美々津を訪れる。そこで、美々津伝統保存地区を散策している途中にふと、目に止まった「備前屋」が空き家状態にあることを知る。幸司は、「この「備前屋」を改修し、終の棲家」にできないか、南と長男、成幸に相談。この大自然に囲まれた歴史とゆかりのある美々津で、家族四人で余生を送ることを決めた。その後、「備前屋」を買取り、改修に取りかかる。



建築概要

構造	木造厨子、大壁造り	
規模	2階建て	
面積表	敷地面積	102.84㎡
	建築面積	62.92㎡
	1階床面積	62.92㎡
	2階床面積	50.24㎡ / 62.92㎡
	延べ床面積	113.16㎡ / 125.84㎡



～空き家改修のコンセプト～
重要伝統的建造物群保存地区であるため景観は維持することを方針とした。そのため、既存内部の改修をメインに行なう。現況は、1階が和室続き間で3間あり、2階は和室が一間と吹き抜けがある状況であった。改修後は、1階を老夫婦が使用し介護までできるようにバリアフリーを施した間取りとなっている。また、2階は息子夫婦が使用し、東側のピンクコーナーからは日向灘が一望できる景観となっている。息子夫婦の趣味である、夫のカメラ、妻の手芸もコーナーを設置し利便性を考慮した。

